

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく生き生きと、今日を楽しく明日を楽しみに」という理念をいつも目に付くところに掲示し日々意識している。一人ひとりのできることを考えミーティングなどで話し合い 実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年 夏の夕涼み会で交流したり、地域の人たちのボランティア活動を受け入れている。地域の自治会の一員としてごみ当番や祭礼なども一緒に行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「あすなる通信」を発行し 地域住民や家族に配布し ホームの利用者の生活の様子を伝えたり情報発信を行っている。グループホーム連絡会を通じて 地域の認知症ケア向上研修を開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族・地域住民・地域包括支援センター職員・介護職員等が参加し、活動報告や意見交換を行い 会議での意見などは職員に伝えられ サービスの向上につなげている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が町の事業所連絡会や代表者会議に参加している。グループホーム連絡会には町の担当者も参加している。他事業所の取り組みを共有したり 課題解決に向けて協力して研修会を行ったりしている。運営推進会議にも町職員が参加している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施設は21時から翌6時。8時30分から17時30分は自由に入出りできるようになっている。利用者の安全を第一に考え 事業所全体で 身体拘束しないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に利用者の身体などを観察、把握し、虐待が見過ごされないように注意を払っている。日頃からケアの悩みやストレスを溜めないよう職員間で話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネジャーは家族状況などを把握し、地域包括センター職員と協力して支援をしている。職員向けの成年後見制度についての研修会の案内が掲示してあったり回覧がある			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。申込や契約の前に本人・家族にホームの設備や生活の様子を実際に見ていただき理解・納得が得られるよう説明している。不安や疑問点はいつでも問い合わせしていただけるよう管理者の連絡先を伝えている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に現状をお伝えし意見・要望を聞くようにしている。苦情受付の窓口や第三者委員の表示を行っている。要望を受け 職員の顔写真を掲示し順次更新している			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティング時、またその都度管理者に提案し、代表者と協議の上反映につなげている。介護用品の導入・手すりの設置・ケア用品の選定・勤務時間帯の変更など			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情もくみ取り 働きやすい環境作りをしている。勤務希望・資格手当など			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習会への参加案内の回覧などあり、受講希望があれば 勤務を考慮している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会を通じた「認知症ケア向上研修」など町内の介護事業所職員と共に研修を行う機会を作り職員に案内している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の病気の状態・生活習慣・不安などに寄り添い、思い・要望に耳を傾け安心して話ができる関係作りに努めている。本人が安心して頼れる存在を確保している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者がご家族の不安や要望を聞き取り 信頼関係を築くよう働きかけている。職員は情報を共有している。来訪時など 状況をお伝えし 要望などにも耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で 管理者が本人・家族と話し合い 本人にとって一番何が必要かを把握するようにしている。医療依存度の高い方やリハビリによる効果の期待できる方などは 他のサービス利用も案内。地域包括支援センターや医療ソーシャルワーカーに相談		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で 家事や畑作業などを自然に協力し合い楽しめる関係づくりを意識している。人生の先輩として尊重しながら お互いに 何でも話しやすい雰囲気作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の心身の状況をお伝えし 支援方法を一緒に考えたり 入居前の生活や趣味の継続に協力していただくなど 利用者を共に支えあう関係を築いている。面会時にゆっくり過ごしていただけるよう心配りしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話や情報から 馴染みの人や場所、本人の希望などを探り 職員間で 共有している。馴染みの場所にはドライブなどで出かけるようにしている。家族の要望も考慮している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	、利用者が孤立したりトラブルにならないよう、職員が気配りをしている。気の合った人同士が家事などを協力してできる環境を作り、穏やかに歓談できる場を作るなど 気の合う人同士の関係を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が亡くなったり、他施設入居になってサービス終了になることがほとんどだが、ご家族との関係性を大切に、必要とされれば相談や支援をしている。ご遺族がホームへボランティアに来て下さっていたり、他の家族の支援やサービス利用の相談を受けることはある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動・会話・表情から、本人の思いや意向の把握に努めている。また、本人、ご家族、職員が協力し話し合っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴などの情報収集をしている。担当ケアマネジャーからの情報提供や主治医意見書・認定調査資料などの情報を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の情報は、介護記録や申し送りで把握、共有しミーティングなどでも共有を確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回ケアミーティングを行い、できるだけ本人を交え、思いや課題を話し合い、介護計画を作成している。家族の参加はまれで、意見や要望は、面会などの機会に聴取している。状況が変化した時は速やかに計画の見直しをおこなっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りで情報を交換し、ケアの向上に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院でのリハビリの送迎。結婚式などの送迎や付き添い。馴染みの理髪店への送迎。入院中の家族との面会。地元の祭礼への参加。入退院の支援。他サービス利用のための支援など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れや花火大会・夕涼み会などの催し物を企画し地域の方と一緒に楽しむことができるよう支援している。社会福祉協議会・地域包括支援センター・英田地区くらし安心ネットワーク・ゆざや市・支えあいボランティアの他		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には 入所前のかかりつけ医を継続し受診している。本人の体調の変化に応じて対応し、適切な医療を受けられるよう 管理者がかかりつけ医や地域医療連携室職員などと連絡を取っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調などに異変があれば看護師・管理者に報告し、必要時に応じて受診などの支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ管理者が情報提供を行い入院中はこまめに状況を見に行き情報交換・共有に努めている。カンファレンスなどにもできるだけ参加させてもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前に管理者から方針を説明し 本人・家族の意向を伺うことで 早い段階から家族間でも考えていただくようにしている。対応できる範囲での支援方法をチームで共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。定期的な訓練やマニュアルの見直しは最近していない		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルは常に、職員がいつでもすぐに閲覧できる場所にある。定期的な訓練やマニュアルの見直しは最近していない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	介護老人福祉施設等との、支援体制はあるが緊急時の対応は難しい。協力医や往診医は休日夜間等も対応可能な支援になっている		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット1名ずつの配置になっており、緊急時は協力して対応している。緊急時は管理者が応援に駆けつける体制になっている		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時や水害時の避難・対応訓練を行っている。運営推進会議で地域住民や家族と共有している。地域の消防団や住民の協力を得られるよう体制を築いている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	スプリンクラーの設置。備蓄品・安全確保の体制は整備中。利用者個々の心身状態により避難方法や避難経路を検討し 訓練を行っている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないような対応を心がけているが お互い馴染みの関係になり肉親のように話をしてしまうことがあり 職員同士で注意し合っている		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ゆっくりと過ごす時間が有り、本人の思い等を出しやすい雰囲気作りを心掛けている。入浴時など1対1のときに思いを聞くこともある。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつは一定の時間に用意しているが個々のペースを優先している。不活性化しないよう気を配り声掛けすることもあるが 無理強いにしないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい好みや色合いなどに合った衣類を選択して頂く。また選ぶことができない人は、季節に合わせたものを選んで、その人らしい衣類を着ていただくよう心掛けている。衣類などの整理をし、身だしなみを整えやすいよう支援している		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物や行事食を取り入れ楽しみになるよう工夫している。また、食器拭き・お盆拭き・野菜の皮むきなど一人ひとりの能力に応じて職員と一緒にやっている。利用者によっては食べやすいように使う食器も工夫している		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス計算されているが、その時の状態によって食べる量に変動がある人には栄養補助食品を使ったりすることがある。水分摂取量が確保できるよう個別に工夫している		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前には、口腔ケアを行い、義歯洗浄を行えるよう支援している。可能な方は毎食後の降雨食うケアを介助している		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を判りやすく表示することでトイレで排泄できるようになった。排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行うことで失敗が減った。トイレに尿取りパッドやパンツを置くことで失禁が減った。行動から尿意を察知しトイレへ誘導し失禁が減った		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状態を把握するよう努め本人にも確認している。乳酸飲料や野菜を摂れるよう工夫したり水分摂取も工夫している		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は職員が決めているが、利用者の希望や身体状態に合わせていつでも入浴できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて 室温調整や寝具の調整、明るさの調整を行っている。体調に応じ日中も休息が取れるよう必要な方には声掛けたり誘導している。真っ暗にしないと眠れない方などは 電気をつけるときに転倒しないよう工夫している		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを作り、職員がいつでも確認できるようにしている。特に処方の変更などがあった際は症状の変化に注意し 職員間で共有し 担当医師に報告している		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除機掛け、寝具(シーツやカバー)の交換、お茶やお花の趣味を活かした家事、カラオケやドライブ・日向ぼっこなど気分転換の支援を行っている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば 職員が付き添えるよう体制を整え 戸外に出られるようにしている。季節に応じて、花見・紅葉狩り、地域の行事などに出かけている。ショッピングセンターや芝居見物。神社の参詣など 個人の希望やその人にあった支援をしている		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により本人がお金を管理している。管理できなくても 自分で支払ができるよう支援したり 欲しいものを買うことができるよう立て替えたりしている		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話できるよう支援している。手紙やはがきを投函している。年賀状が届いたら 返信を促している		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室の窓からは畑の花や野菜が見え開放的で季節や天候を感じることができる。照明やエアコン・テレビの音量・におい・空気の流れなど不快にならないよう調整している。季節を感じる掲示を利用者と共に作成している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や和室にソファを置き 多目的ホールには 薪ストーブが焚いてあり 椅子やソファも配置を工夫し 気の合う人や家族などと過ごしたり 一人きりになったりできる		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みは少ないが 使っていた毛布などを使用したり 家族の写真や自分の写真・作品を飾るなどして居心地良く過ごせる空間作りを心がけている。ベッドの位置を変えたり 手すりを付けるなど安全面も工夫している		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にあわせてトイレの方向を表示したり お風呂には暖簾を掛け目印になるようしている。安全面に配慮し注意喚起の表示もできるだけ簡潔な言葉を選び見やすい位置に張るなど工夫している。毎月のミーティングや気づいた都度安全で自立した生活が送れるよう話し合っている		